



木造建築・構造設計の第一人者、増田一眞氏を迎えてのセミナー「伝統を未来につなぐ」(夢木香主催/2010年7月10日)。  
日本古来の伝統構法が、いかに理(宇宙律)に適ったものであるか、いかに時宜に即したものであるか、全ゆるる角度から余すところなく伝えてくれた。  
今回は、そのダイジェスト(1)を、お伝えしたい。

伝統構法  
に学ぶ

住まい

涼木

文・荒野一星

日本古来の伝統木構法による建造物は、「200年住宅? 甘い、甘い」と思わせるほど長寿で、美しい。

ものづくりの基本は、丈夫であること、美しくあること、長持ちすること。伝統構法では、構造物がほとんど造作材を兼ねており(総持構造)、「構造即意匠」のつくりになっている。これは、「宇宙の万物・万象は、全ゆるるところで繋がり合い、支え合いながら、生きて脈動するひとつの生命」―そのことの相似象に他ならない。

奈良時代(1300年以上)、平安時代(1000年以上)の建造物は、各々60棟ほど今だに健在。鎌倉時代(800年以上)のものが約400棟、室町時

代(500年以上)も含めると約1000棟、近世以降400年経つものは無数と言っている。社寺に限らず、民家でも、兵庫や福井には築

500年以上のもの、築200〜300年なら、各県にいくらでもある。高温多湿の日本の風土の中で、これは実に驚異的なこと。世界広しといえど、他に例がない。近年、有史以前の遺構が各地で出土し、先史時代の木造技術が急速に注目を浴び始めている。九州・西都原古墳の

舟形植輪に代表される、石器を使つての刳船は、5000年ほど前のもの。これらの出土品からは、古代、仏教とともに大陸から伝わった寺院建築の技術以前に、日本独自の高度な技術があったこと、そしてその技術は、石器時代、縄文、弥生、古墳の各時代に至る数万年前の間に培われたものであり、木への深い洞察を含めて、きわめて水準の高いものであったことがうかがわれる。

この貴重な住文化を、われわれは、明治以降の西欧崇拜の流れの中で、一旦は否定し、破壊してしまつたかにみえる。同じく貴重な食文化と共に。しかし、桜沢如一が80年前に渡欧して広めたマクロヴィオテックが、ブーメランのように里帰りして再び根つき始めたように、日本古来の伝統構法も、メビウスの帯状に180°回転しながら、着実に蘇り始めている。

## 伝統構法、復権の秋

とき

増田氏が木造の構造理論に取り組み始めてから約半世紀。氏も言うところ、今は正に、伝統の知恵と、現代の構造理論とを融合し、新たに伝統構法を深化させ、蘇生させる秋なのだ。

昨年、技術・科学図書文化賞を受賞した氏の「建築構法の変革」、エッセイ集「一眞のほろ酔い随想」のご一読を、お励めしたい。エッセイ集の帯にある氏の一文―我が国の大工棟梁は、木造建築という形をとつた、すばらしい詩歌をつくり出した存在なのだ―

氏の活動のエネルギ―が、まぎれもなく「無限の愛」であることを、おわかりいただけるだろう。



増田一眞氏

1934年広島生まれ。1958年東工大建築学科卒。(株)松村組、東大生産技術研究所田中尚研究室を経て、1964年増田建築構造事務所設立。2005年第1回ものづくり日本大賞受賞、他。

夢木香イベント2011 FEB 第6回夢木香セミナー

伝統構法  
復権の秋

心地よい木の空間を求めて

講師：小林利武氏

・小林建築設計工房一級建築士  
・第2回佐賀の木・家・まちづくり知事賞受賞

悠久の時に培われた棟梁たちの深い知恵と、最先端の観性が融け合う、懐かしくも、新しい、癒しの空間… 家づくりをお考えの方は、お気軽にお出かけ下さい。

と き：平成23年2月6日(日) 13:30~15:30  
と ころ：佐賀市交流センター 佐賀市白山2丁目7-1 エスプラッツ3階  
先着30名様。お問合せとお申し込みは左記までお願いいたします。

有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員

佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847

http://www.yumekikou-happy.com

☎0120-835-832

TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334

E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp